

## 令和4年度 幼保連携型認定こども園盛岡大学附属幼稚園教職員による自己評価アンケート結果

※保護者アンケートを踏まえた教職員29名による各項目の自己評価のアンケートを集計したものです。

A=成果があった    B=どちらかといえば成果があった    C=どちらかといえば成果がない    D=成果がない

内 容	評価割合			意見・改善策
1.指導計画・保育記録の作成 (1) 指導計画の作成	52%	34%	14%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの姿や育ち等常に保育を振り返りながら、指導計画の作成に臨んできた。</li> <li>・建学の精神や指導計画の理解が不十分と感じる事もあったので、すべての保育士が共有するための時間を確保する必要がある。</li> <li>・保育の記録を作成しながら反省し次の活動・環境設定や個々に応じた関わりを考えて保育に活かすことができた。</li> <li>・クラス担任団だけではなく、クラスや学年を超えて園として共通理解する必要があった。</li> <li>・お互いの保育について、意見を交わしたり、謙虚に受け止めたりすることがもっと意識できるとよいと思う。</li> </ul>
(2) 保育記録の作成	69%	31%		
2.教育・保育内容 (1) 健康	93%		7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね子どもたちの実態に即して保育を行うことができた。</li> <li>・乳幼児の受け入れにあたり研修や実習を行い、生活に必要な物品購入や安全対策のための環境整備を行った。また、時期をずらして園児ひとりずつを受け入れる等、安心して過ごせるように個々に応じた保育を行った。</li> <li>・全園児が新しい園に馴染み子ども達が喜んで登園できるようひとりひとりの心の動きに合わせて関わった。</li> <li>・新しい場所で試行錯誤しながら保育をしてきたが、これからは生きていくと思われる。</li> <li>・活動を計画する場合、もう少し丁寧に指導の仕方やどこをねらうかを考え工夫できればよかった。</li> <li>・季節の変化や子ども達の育ちに合った経験ができるようにもっと意識的に準備をし環境構成を行っていくことが必要だと感じた。</li> <li>・絵本の読み聞かせができていなかった時があった。見通しを持って計画的に準備したり、その月で読む本を選んだり吟味する時間を確保する必要がある。</li> <li>・年齢ごとに季節や行事に応じた様々な活動に取り組むことができた。</li> <li>・歌や手遊び・製作など意識して「この経験をさせたい」ということをもっとできればよかった。</li> <li>・一人一人が安心して遊んだり生活したりできるような気持ちの育ちを支えられるとよかった。</li> <li>・特別支援において、個々に応じた指導について保育者間で相談する場が欲しかった。</li> </ul>
(2) 人間関係	69%	28%	3%	
(3) 環境	49%	48%	3%	
(4) 言葉	66%	34%		
(5) 表現	57%	39%	4%	
(6) 情緒の安定	73%	24%	3%	
(7) 特別支援教育	64%	36%		
(8) 環境整備	80%	20%		
(9) 健康管理	90%		10%	
3.保護者への対応	52%	48%		
4.職業人としての意識	52%	41%	7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれが自分の役割を意識し、状況に応じて柔軟に協力し合って仕事に取り組んだ。</li> <li>・一人一人の職員が主体的に研修に参加し保育の質向上に努めた。</li> <li>・シフト勤務になり職員数も多くなったことにより、全体での情報の共有が難しかった。</li> <li>・報告・連絡・相談が徹底できず業務に支障をきたす事もあったので、今後効率的に方法も見直し意識していきたい。</li> <li>・率直に意見を相手に伝えたり相手の意見を肯定的に受け止めたり等コミュニケーションを取り合う。</li> <li>・教師も精神的におだやかになると子どもも心落ち着かせて過ごせるので、ストレスを溜め込まないようにする必要がある。</li> <li>・基本的な仕事の在り方を改めて振り返り謙虚に学ぶ姿勢を心掛けたい。</li> <li>・全職員が園の運営や経営についても関心を持ち、共により良い園を作り上げるという意識を持つ。</li> </ul>